



キリバスって？

太平洋の真ん中、赤道と日付変更線の交わる地域にある島国キリバス共和国は、21世紀を最も早く迎えた国、またミクロネシア東端の豊かな文化を伝える唄踊りの大変美しい島国でもあります。日本との関係では、太平洋戦争において日米の激戦が行われ、大きな犠牲をもたらして日本軍が敗退した「マキン・タラワの玉砕」の島としても知られています。

近年では、島々の平均海拔がわずか2メートル前後、幅はなんと数百メートルしかなく、気候変動等の影響によって海水の水位が年々上がる等により、存亡の危機にある国として、隣国ツバルとともに知られるようになりました。



キリバス国旗

◆ 出演者



ケンタロ・オノ氏

1977年宮城県仙台市生まれ。1993年にキリバス共和国に単身で高校留学し、高校卒業後も引き続き同国に在住。2000年にキリバス共和国に帰化。開発コンサルティング会社を経営しながら、キリバス商工会議所会頭、キリバス開発銀行理事、キリバス外務省顧問、アノテ・トン大統領私設政策補佐官などを歴任。2011年から日本在住。2014年にキリバス大使顧問、2015年に在日本キリバス共和国名誉領事に就任。2017年には一般社団法人日本キリバス協会を設立し代表理事に就任。名誉領事としてキリバス・日本両国間関係の活動のみではなく、同協会代表理事としてキリバスにおける気候変動・地球温暖化が引き起こす人的側面の問題に関する講演活動を日本や世界各国で行っている。

一般社団法人日本キリバス協会を設立し代表理事に就任。名誉領事としてキリバス・日本両国間関係の活動のみではなく、同協会代表理事としてキリバスにおける気候変動・地球温暖化が引き起こす人的側面の問題に関する講演活動を日本や世界各国で行っている。

ホストユニット アンチャン・プロジェクト

(anchang project)

三線、笛、ギター、打楽器等と共に、本州～奄美～沖縄～宮古・八重山～与那国～台湾～太平洋へと、東アジアの端に



花飾りのように連なる花緑列島の歌のプリミティブな唱和の楽しさを追求。近年は台湾先住民族との交流を深めている。キリバスは唱和の喜びを教えてくれた、アンチャンの歌心の故郷の一つ。日本で唯一キリバスの唄を唄う音楽ユニットである。安場淳(唄三線)、ダリア比嘉(唄、カエル他)、MAKI(唄、笛)、Jojo 澤渡(g., 唄)。今回はサポートにパーカッションのカサハラ・マが加わる。

今回、イベント開催経費を最大限協賛・賛同人収入で補填することを目標としております。ご協賛・ご賛同にご理解とご協力をいただければ幸いです。実行委までお問い合わせ下さい。

また、キリバス国内における気候変動適応支援のため、会場でケンタロ・オノさんの著書『キリバスという国』(定価 2000 円)の販売及びカンパを募らせていただき、その一部をキリバス政府に寄付させていただきます。ご協力をお願い申し上げます。

セーブ・キリバス!実行委員会(代表:安場淳)



海面上昇で水に浸かった家屋



キリバスの男の子たち



かつて村だったところ(海水で土壌と水が汚染されてしまった)

写真の撮影地:キリバス各地(ケンタロさん提供)

セーブ・キリバス!実行委員会(anchang-yasuba@jcom.home.ne.jp)